

2015. 4. 23 (水)

関学との初めての出会い

Ruth M. Grubel

はじめに

1年生の皆さまはいかがですか。やっと昨日から空が晴れて、キャンパスに来るのが楽しくなったと思います。いろいろまだ分からないことがあるかもしれませんが、安心して毎日を楽しんでください。

社会学部のチャペルでは、月ごとに共通のテーマが決まっています。それについていろいろな人のお話をします。社会学部の春学期は「建学の精神」というテーマが多いのですが、今年は「関学と出会う」です。このテーマについて、最初に話す機会をいただいて光栄に思います。これからまたいろいろな人たちのお話がありますので、ぜひ楽しみにしてください。

私の関学との出会い

皆さまは、いつ、関学と初めて出会いましたか。もしかしたら、入学試験を受けるために上ケ原キャンパスに来た時かもしれません。それとも、ここにいるお友達を訪ねて来た時でしょうか。関西学院の中学部や高等部の卒業生であれば、普通に上ケ原キャンパスを自分の居場所として何年か過ごしてきたかもしれません。とにかく、初めて関学のこと

を知った時、初めて皆さまが社会学部、あるいはこの上ケ原キャンパスに来た時を思い出してみてください。

私も、このお話のためにもう一度思い出しました。初めて関学を知ったのは、実は23年前で、みんなが生まれる前ですね。私はアメリカで生まれたのですが、子ども時代はずっと日本で過ごしました。場所は関西ではなかったのですが、関西の学校のこと、この関西学院という大学の存在は意識していませんでした。23年前はアメリカの大学に勤めていて、そこで普通の生活をしていたのですが、広島大学に留学するチャンスをいただいて、その時に家族4人で広島に1年間滞在しました。そしてその間に、関西学院大学の「国際セミナー」というプログラムに呼ばれてこの上ケ原キャンパスに来ることになりました。セミナーの前の晩に着いて、これも覚えていたのですが、宝塚ホテルに泊めていただきました。いいでしょう！

そして次の朝、丁寧な説明をいただいて「ここの阪急電車に乗って甲東園まで行ってください。そしてそこでバスに乗ってキャンパスまで行ってください。」と言われました。もちろん甲東園まで行けたのですが、どこでバスに乗ったらいいのか、どのバスがいいのか迷っている顔をしていたのでしょね。す

ると、とても優しくそうな顔をされた方が完璧な英語で「Can I help you? Where are you going?」と聞いてくださったのです。「おお、素晴らしい」と思い、「I am going to Kwansei Gakuin University. I am not sure which bus to get on.」と言ったら、「Oh. I will show you.」と言ってバス停に案内していただきました。そしてバスに乗ると、その方が持っておられた回数券を私に1枚くださったのです。「うわー、ここには優しい人がいるんだな。」という印象を強く受けました。着いてからまたその方が、正門までの道を教えてくださいました。後から分かったことですが、この親切な方は、2年前に文学部を退職された馬場先生でした。そして、私は正門に行きました。

関学の美しいキャンパス

私はその時まで日本の大学に何力所か行ったことがありましたが、国立大学が多く、大変失礼ですけれども、その当時はキャンパスがあまりきれいではありませんでした。特に広島大学はキャンパスを移す計画があったので、メンテナンスがされていなくて、建物は古く、戸棚も崩れそうで、庭も手入れがされていませんでした。ですから、この上ヶ原の正門からキャンパスを見た時、「うわー！これは一体どんな所なの？ここは日本じゃないみたい。どうしてカリフォルニアのようなスパニッシュ・ミッションなの？」とびっくりしました。

感動しながらセミナーに参加し、そこで出会った人々も優しくて丁寧で、とてもいい印象を受けました。ですからその日、広島に帰ってから家族に「私は日本で大学の仕事をす

るのだったら、絶対にあの関西学院がいいな。」と言ったそうです。自分では覚えていないのですが、とにかく、とてもいい印象を受けました。長くなりましたが、それが、私の関学との初めての出会いでした。

いろいろな関学との出会い

皆さまの関学との初めての出会いは、いつ、どのようなものだったでしょうか。一人ひとりにお聞きしたいところですが、残念ながら今日は時間がありません。またいつか教えてくださいたいね。とにかく、これからも関西学院で、いろいろな「自分」の関西学院に出会っていただきたいと思います。今、2万人以上の大学生が関西学院大学にいますが、「あなた自身」で「これが好きだ」、「これが私の、これが僕の、関学の居場所だ」、「これが私の関学の出会いだ」というところを、ぜひ見つけてください。

創立時の関学

もちろん関学に初めて出会ったのは、創立時の先生と生徒ですね。当時は塾のような小さな学校でした。126年前にできた関西学院は、5人の先生と19人の生徒だったそうです。先生は主にアメリカ人で、英語で授業をしていたので、きっといろいろ大変だったと思います。きちんと思いが通じなかったこともあると思いますし、生徒たちも本当に、自分は何をしようか、何をしたらいいのか分からなかったかもしれません。

最初のキャンパスは、今、王子動物園がある原田の森という場所にありました。六甲山が背景にあり、摩耶山がすぐ上にありまし

た、山の反対側は、海が見えました。神戸港です。そのようなキャンパスで、学問やいろいろな人々との出会いがあったのです。それは、とても印象的だったと思いますし、このキャンパスの場所が人々に大きな影響を与えたと思います。1910年からはカナダの教会が関西学院の支援に加わり、カナダからも宣教師や先生が来ました。もちろん日本人の先生もいましたし、この時代はヨーロッパから来た先生もいました。中国や韓国からの学生もいましたので、関西学院はとても国際的な雰囲気の中にありました。

関学の上ヶ原移転

創立から40年後、関西学院は大学になるためにもっと大きな場所を見つけなければならなくなり、原田の森のキャンパスを売って、上ヶ原に土地を買い、余ったお金で建物を建てました。このキャンパスをデザインしたのは、アメリカ人で後に日本の国籍を持つウィリアム・メレル・ヴォーリズという人です。ヴォーリズさんは、私たちが毎日目にする甲山を背景に時計台、そして中芝の周りにスパニッシュ・ミッションの建物を配置しました。

きょう中道先生に読んでいただいた聖書の箇所、「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。」(『旧訳聖書』詩編121篇1節)を思って、ヴォーリズさんはこのキャンパスを設計したのではないかとされています。正門を入ると私たちは最初の中芝を見て、時計台、山、そして天へと目が導かれます。つまり、キャンパスに入る時に、私たちは天を仰ぐ姿勢になるのです。この聖書の箇所にあるように、誰が私たちを見守ってくださるのか、困っている時には誰が私たちを助けてくれるのか、

それは天地を造った神である、関西学院に来ると言葉はなくても、キャンパスがそれを私たちに伝えてくれていると思います。

ですから、皆さまが次にこの正門に入ってくる時にはぜひ、正面の視線を天にまで上げてみてください。皆さまが神様に愛されて、毎日関学で素晴らしい出会い、そして本当に充実した毎日を過ごすことができるよう願っています。緑に溢れ、今は新緑が本当に美しいですが、皆さまも新しい「命」でたくさん社会学やいろいろなことを学び、新しい人に出会い、生き生きとした時間を過ごしてください。

チャペルへの参加

このチャペルというものは関学だけではありませんけれども、このようにキリスト教主義を大事にしている学校では本当にいいプラスアルファになっていると思います。皆さまは回数券を払わなくても、料金を払わなくてもチャペルに参加できます。ここに来たら、様々な学生活動の話が聞けるし、音楽団体の演奏も聞けるし、いろいろな先生方の人生についてのお話が聞けます。これは他所の学校ではなかなかできないことです。ぜひ皆さま、このようなチャンスをつかんで、関学でしかできないこと、関学でしか出会えない経験、それをフルに活用してください。

皆さまがこの関学にいる間、豊かな出会いに溢れた毎日を過ごすことを、心からお祈りしています。そして関西学院でのたくさんの思い出が、これからの人生の燃料というのでしょうか、励ましになり、社会人になって様々な問題に出会った時も力強く進んでいたきたいと思います。

(院長・社会学部教授)